1. 評価結果概要表

作成日　平成21年 7月3 日

【評価実施概要】

事業所番号	3470102694
法人名	医療法人　好緑会
事業所名	グループホーム　ふれあい矢野
所在地 (電話番号)	広島市安芸区矢野東四丁目24-14 (電　話) 082-889-5551

評価機関名	社団法人　広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年6月23日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】(21 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数	30　人	常勤　20 人, 非常勤　10 人, 常勤換算　16.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	軽量鉄筋　造り	
	3 階建ての　1 階 ～ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	日額 2,300　円		その他の経費 (月額)	実費　円
敷　金	有 (　円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (　150,000　円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1,000　円			

(4) 利用者の概要 (4 月 1 日現在)

利用者人数		27 名	男性	2 名	女性　25 名
要介護1		5　名	要介護2	5　名	
要介護3		7　名	要介護4	5　名	
要介護5		5　名	要支援2	名	
年齢	平均	85.7 歳	最低	79 歳	最高　95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック・廣本クリニック・済生会広島病院・アイリス歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ふれあい矢野」は、母体の医療機関や関連の福祉・介護事業所の連携のもとで、ホームの運営状況の透明性を図り、家族とともに変革を推進しており、また法人全体で高齢者福祉に取組み地域福祉の一旦を担いながら、ホームでの取組が更に地域の認知症ケアの増進となるように努められている。若干職員の交代があったようだが、理念を具体化した各ユニットの目標を職員全員で確認し合いながら、やさしい介護に徹して、利用者の主体的な、また穏やかな生活を確保されている。このことや、利用者の人権を尊重し、豊かな介護環境を提供する職員の姿勢は、利用者の方々が安心して穏やかな生活を送られている姿からも伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4) 前回の評価では、理念の共有と日々の取り組みについて、ケアの意見の統一を図られることが期待されていたが、その後各ユニット毎に職員全員が話し合って目標を策定し、日々の実践の中で活かすように取り組まれていたが、このことの総括が遅れている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4) 評価を一年の集大成として、また職員のステップアップの機会と捉え、今回の自己評価も全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎と定着した運営推進会議は、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員等、幅広い立場の人達が参加して、事業所からの報告とともに、参加者からも多くの率直な意見等を受けて、質の確保を図っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8) 運営推進会議や家族の来所及び事業所独自の家族宛アンケート等を通じて、率直な意見や要望を前向きに受け止め、改善に活かしていく姿勢が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3) 常日頃から、利用者と職員が地域の行事等には積極的に参加されており、顔見知りの関係づくりを行っている。また、運営推進会議等を通じて、地域の人たちとの接点を持つようにも努められている。

2. 評価結果(詳細)

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念を基に、地域密着型サービスとしての役割を念頭においた事業所独自の理念を、職員全員で話し合ってつくりあげている。また、ユニットごとの理念を具体的な行動目標に置き換えて、日々のケアの実践に活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月例のミーティングの際に、理念を必ず触れて意識づけとケアについての共通認識を図っている。各ユニットごとに目標を具体化し、実践されている。	○	例えば、各ユニットの具体化目標の実践を振り返り定例化するなどして、今以上にケアについての意見の統一が図られることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや老人会行事等へ積極的に参加するなど、常に地元の人々と交流し接点を持つ努力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	また、全	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月例ミーティングで自己評価の目的等についての話し合いや学習会を行い理解を深めている。また、全員で自己評価に取り組まれており、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に1回定期的に開催され、地域包括･町内会長･民生委員･家族代表などの出席があり、事業所の取り組み内容や具体的な改善策、課題が話し合われるなど有意義な会議となっている。この会議を通じて地域に密着した事業所の確立に役立っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会などには積極的に参加している。また、定期的に実施する総合的な防災訓練等を通して、行政･地域との交流を行い、地域の方に支援される事業所になるよう努力が感じられる。	○	運営推進会議や他の行事等への参加を積極的に働きかけるなどし、事業所のサービスの質の向上に向けてより良いあり方を模索する協働関係を図って行くことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、手紙等で現状を報告している。また、家族の来居時や電話等で何らかの変化や問題が起こった時に限らず、きめ細かく報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、利用者家族等から直接職員に、またアンケート等で、意見、不満、苦情等を表せる機会づくりと雰囲気作りに留意しながら、出された意見等は前向きに受け止め、活かしていく姿勢が伺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職を最小限に抑える努力を行っている。やむを得ず職員が異動する場合には、利用者及び家族への不安等を最小にするために引継ぎの期間を十分に取るなどの配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人のステップアップ研修や個人の自主的受講を取り入れるなど、全職員が研修に参加できる機会を作っている。また、研修報告については、全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者や母体の法人の関連事業所などと学習会や交流会を持つことにより、サービスの向上に努められている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者･家族等との面談や職員が会いにいったりしながら、本人の安心と納得が得られるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの性格や能力を見極め常日頃から、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、各事業所の行動目標である、待つ･寄り添う･ことばを大切に実践し、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや、少人数の馴染みの関係などから、利用者一人ひとりの思いや希望･意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者の気づきや意見等を反映させながら、職員の視点ではなく、利用者及び家族の要望に添った介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の策定･見直しは常に行われている。利用者に変化が生じた場合は、家族の方や医師と話し合いながら現状にそくした介護計画が作成されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの生活圏の中にある、商店や町内会、老人会等と関係を持ちながら、利用者の暮らしのニーズに対して柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診や通院は、本人と家族の同意と納得の上で支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、その都度本人と家族、事業所との話し合いの場を設け、方向性を共有し事業所が対応できうる支援を検討している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から利用者の意思を尊重し、言葉使いにも配慮し利用者に接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の定例スケジュールに流されないよう配慮している。出来るだけ利用者のペース･体調に合わせ、本人の気持を尊重した支援が行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや、調理、配膳、片付けなどの食事一連の流れは、利用者の意志や気持を大切にしながら進めている。また、メニュー作りは利用者の思いを反映させている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望、状態に合わせながら柔軟な入浴介助支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さんとの日々のふれあいの中で要望を見出しストレス発散の外出支援･植物を育てる支援等を通じ、張り合いのある生活支援の実現に努力されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節･その日の天候や利用者の健康等を把握して、一人ひとりが短時間でも外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を良く理解し、常に利用者の行動を見守り、日中は鍵を掛けない支援を実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練や消火器等の点検を行いながら、災害対策等の支援体制の整備に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の食事･水分の摂取量は把握されており、一人ひとりの状況に合わせた支援がなされている。また、関連事業所の管理栄養士から専門的アドバィスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、食事の準備の匂いや音、心地よい音楽、季節感等を意識的に採り入れながら居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族との相談の上、自宅で使い慣れたタンス、化粧道具等の日用品や写真等持ち込んでもらい、安心して過ごせるよう配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名　グループホームふれあい矢野　Ａユニット

評価年月日　平成２１　年　６　月　２３　日

記入年月日　平成２１　年　３　月　３１　日

※この基準に基づき，別紙の実施方法のとおり自己評価を行うこと。

記入者　職　介護職　氏名　高山、早瀬

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所理念　A棟の理念を念頭に置き、取り組みしている	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		○	ミーティングで話し合い、新たな目標を設定している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族へは話す場等設けているが、地域へはあまり出来ていないと思われる。	○	運営推進会議などを活用する。
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶は出来ているが、気軽に立ち寄ってもらえる様な日常的な付き合いは出来ていない。		。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	祭りの参加や老人会、総会へ主任が参加する等、こういう場で交流出来ていると思う。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	運営推進会議を２ケ月に１回行ない、話し合いを行っている。		
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	主任、リーダーより内容を聞き、その度話し合い、取り組もうとしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。			
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	同じ地区のグループホームの職員が集まり、意見交換の場を設けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	詳しく内容を知っている職員はほぼいないに等しいと思われる。又、職員が学べる機会も設けていない。	○	全体会議やフロアーミーティングの時に、皆で学び話し合う時間を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	どこから虐待になるか等、ある程度知っているスタッフは多いと思う。 見過ごされることがない様、スタッフの連携も取れていると思う。	○	全体会議やフロアーミーティングで高齢者虐待防止法関連法について勉強会を開き、皆に詳しく知ってもらう。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４　理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時重要事項を説明し施設の状況を見学され、利用者、家族への不安を解消し契約のクロージングに努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	不満、苦情を各フロア担当し受容して、面会時あんしんして会話できる様に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶり、金銭管理は必ず月に１回報告しているが、利用者様が体調不良をおこした際の御家族への連絡が不十分の時がある。職員の勉強等も報告出来ていない。（管理者以外）	○	御利用者様の状態を見て、以前と違う状態になったり等した時は、ご家族へ連絡を取っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	利用者ご家族にアンケートを送り、直接本部に郵送して頂くシステムを行っている。	○	面会時を利用した会話に日々の生活を相談し、意見・苦情等を伺っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	２ケ月に１度のミーティングを活用し、意見交換し反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	指示、受診等を含め、利用者を中心とした勤務に努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動、離職を必要最小限に抑える努力はしているが、離職に関しては難しい時がある。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	法人のステップアップ研修、及び個人の自主的受講を取り入れ、スタッフ皆が研修に参加できるシステムに取り組みしている。	○	法人主催　マイスター試験を年に１回、７月に実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人のグループホームでの交換研修を実施している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	家族のレク、及びストレス削除のため、家族の旅行に対しての補助、野球観戦に希望をつのっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。		○	向上心を持って働けるように努力している。
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	利用相談があった際、ホームの見学や御家族様、御利用者様と話す機会は作られていると思う。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	ご家族の方へ足を運んで頂いたり、訪問したりとし、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応として１ヶ月間のケアプランを実施し、安心して過ごして頂ける様に対策を立てている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	今現在は出来ていないと思われる。	○	ショートステイが出来るようにはなっているが、まだ利用には至っていない。
２　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	１人１人の能力、性格を見極め、支えあい、感情が出せる様に努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や行事の時には近況を伝え、又相談等があれば受け止め、本人を支えていく関係が築ける様に努めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	日常生活を月１回定期的に報告し、面会時に戸惑いがない様に支援している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	面会者や御家族等より外出希望があった際に対応し、支援できている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	リビングでスタッフが間に入り、会話の機会を設けたり、リクリエーション等行い、交流の場が持てる様に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後は関係が持てない。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	日々の生活やささいな会話から見つけ出せる様に努めている。	○	困難な場合は自分に置き換えて考えてみる等していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サマリーに記載してあったり、御家族様の情報で把握出来ている。時には御利用者様の会話の中で情報収集出来ることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタルチェックや生活記録に残したり、申し送り、フローアーミーティングで話しあったりして全員把握できる様に努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時にはミーティングを開き、スタッフ間で意見交換を行っている。 御家族へは電話で意向を必ず伺っている。	○	御家族のケアプラン更新時、ミーティングへ参加して頂ける様に働きかけていきたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は必ず実施期間を設定し、見直しを行っている。 又、担当者を中心に期間前に実行不可能となった場合、見直し・現状を把握しプラン変更を行っている。	○	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録にモニタリングの欄があり、実施した際は記入し、情報は共有している。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	出来る限り意見に添える様に努力している。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年に一度の消防訓練、防災委員主導に訓練を（　　）ヶ月に１回実施している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	その都度、相談･連携を取り対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等で協働しながら行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者又は、御家族が希望する病院への受診対応は出来ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関をはじめ、週１度の往診や近隣の協力医療機関と連携、相談しながら支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	気軽に相談できる訪問看護師が定期的に来所している。利用者のこともよく知っている為、健康管理等も行っている。特変等あった時もすぐ連絡を取り、指示がもらえる状況である。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	入院時は面会を行い、病院関係者にはその都度情報交換、相談を行っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	その都度話し合いの場を設け、共有できるようにしている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ドクター、看護師の支持のもとで支援に取り組んでいる。又、ご家族の希望も取り入れている。	○	全体会議でテーマをあげ、スタッフの全体の意識向上をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	センター方式やサマリーを渡すことで、情報交換を行える体制にしている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	記録等、個人情報の取り扱いは十分注意している。 人生の先輩として言葉使い、声掛けにも気をつけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活の中で、自己決定が出来る様な環境作りに努めている。又、本人が混乱しないように本人に合わせたケアを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	御利用者様より希望があった際、話を聞き可能なことは希望に添える様努めている。	○	スタッフ不足の関係や、スタッフの都合でスタッフのペースになっている事が、時々見られている。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容に関しては御家族、ご本人より希望があればその都度行けるようにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	出来る方には一緒にして頂いている。（食材切り、片付け等）		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	今現在、特に希望されている御利用者様はいない。おやつに関しては、こちらから聞くと希望を話すことがある為、その場合はその都度対応している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握、又、定期的にトイレ誘導を行ないトイレでの排泄ができるように支援している。（パットへ出ていることもあるが）		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	スタッフの都合で「入りたい」と希望されても入れなかったりすることが時々ある。 入浴時はゆっくり入って頂ける様、本人のペースにあわす様に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	１人１人個室があり安心して休める環境作りは行っている。畳で休まれている方がいるが、カーテンを閉め、回りから見えない様に配慮している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	１人１人個別に対応し、混乱しない様その人に合った役割、楽しみごと等出来る様、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	スタッフで管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	散歩希望があれば、その都度行っている。 買物も行ける方には必ず声を掛け、同行して頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	御家族から希望があれば、いつでも外出出来る様にはしている。 行事等で普段行けないような所への外出は、時々行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望があれば、電話は出来る限り対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は自室、リビングでゆっくり過ごして頂ける様、配慮している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束にならないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	スタッフが少ない時、リビングに誰もいなくなる時もある為、そういう時はやむを得ず鍵を掛けている・（１～２分間） （外へ１人で出ようとする方がいる為）		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、工夫しながら利用者の所在や様子を把握している。（遠くから見守りをしたり、何気なく声を掛けたり）		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	危険とスタッフが判断した物は、スタッフ管理にさせて頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	スタッフが１人１人の状態を把握し、又、事故のない様に意識して業務にあたり、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルがあり、いつでも見れる様になっている。	○	応急手当や初期対応の訓練はしていない為､定期的にミーティングの場で確認の意味も込めて行う。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的にグループホーム内で避難訓練は御利用者も含め行っている。	○	もしもの時に備えて地域の人の協力を得られる様に、働きかけが必要である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ご家族には面会時、及び変化の都度、説明を行っている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	気がついた際は、その日の勤務者と相談したり、主任・看護師へ相談したりと、情報共有出来ている。又、記録にも残し申し送りも出来ている。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ドクターの指示や、何故この薬が出たのかの説明は申し送りをし、共有出来ている。又、病状の変化も記録へ残す事で共有出来ている。但し、副作用については理解していないスタッフもいる様に思われる。	○	新しい薬が追加になった時は、薬剤情報の紙を全員読むようにしたり、薬剤師へどのような副作用があるのかを尋ねる様にする。
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分量を記録に取ったり、毎朝牛乳をコップ１杯飲んで頂き、予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、夕食後は必ず行っている。咳の多い方のみ、昼食後も口腔ケアして頂いている。	○	毎食後、全員口腔ケアの支援を行っていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	生活記録において、水分確保し毎月１回管理栄養士によって、㊙、㊒のエネルギーを記録。又、日々の献立表を基本ベースにし、栄養状況を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	インフルエンザ予防注射、トイレ・手すりの掃除、パジャマの洗濯、入浴後毎日更衣している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日調理用具一式を消毒している。		
２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関廻りに花を植え、椅子を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住宅街にあり、遠くを眺めれば山々があり、又ＧＨ裏には菜園を設置。春夏秋冬野菜や花を植え、季節を感じて頂いている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳の間があり、洗濯物をたたんだり本を読んだりされる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、家族との相談で使い慣れたタンス、化粧道具等々持参して頂く様、お願いし工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節により居室と廊下の温度差、浴室と浴槽との温度調整を行なっている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、両サイドに手摺、玄関に手摺、椅子を設置。安全、自立を加味した対策を取っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	自分で出来る事と出来ない事を把握し、見守りながら安心して過ごせるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ＧＨの周辺に菜園を設置、季節感、収穫を楽しんで頂いている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名　グループホームふれあい矢野　Bユニット

評価年月日　平成 21 年 6 月 23 日　　記入年月日　平成 21 年 3 月 31 日

※この基準に基づき，別紙の実施方法のとおり自己評価を行うこと。

記入者　職　介護職　氏名　中山 晴美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	前回の目標の評価を行ない、新たな目標を設定する。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングで目標の確認をする。 又、新しい目標をたてた時は、各自意識付けを行い、責任者に連絡する。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や地域の病院やスーパー等を通じて、理解して頂ける様、取り組んでいる。	○	
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の人と出会ったりする時、挨拶する等、顔馴染みになれる様努力している。	○	散歩コースや時間が大体決まってくると、出会う人の顔も馴染みになり、笑顔で挨拶が出来る様になっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議で町内の会長さんに町内の事等の話を伺い、手伝える事は積極的に手伝うようにしている。	○	

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	運営推進会議を通じて、考えていく。	○	
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		○	外部評価の意義を理解し、評価を活かした取り組みをしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。		○	評価への取り組み状況を報告して、そこでの意見をサービス向上に活かしていきたい。
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	同じ地区のグループホームの職員が集まり、意見交換の場を設けている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。		○	成年後見制度を利用されている利用者の方は増えているので、スタッフも常に新しい情報を学ぶ機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	ミーティングや勉強会などで学ぶ機会を作り、虐待防止に努めている。	○	

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	４　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明をして、納得して頂けるようにしている。又、要望や疑問点等も聞くようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	日々の生活の中で自由に話が出来る機会を設けている。それらをケアプラン等に反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に１度はご家族に状態の報告をしている。 面会時には日々の生活をお話ししている・		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。		○	面会時に日々の生活状況を報告しながら意見をお聞きしたいと思うが、なかなか十分に聞けているとは思えない。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。		○	定期的に開かれる全体会議、勉強会で意見を聞き、向上に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	受診時など、できるだけスタッフの調整を行ない、努力している。	○	

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	法人内外の研修は、各個人の希望に応じている。	○	年１回のマイスター試験実施により、質向上に努めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流の場には参加している。又、同法人内のグループホーム同志の交換研修の実施をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		○	充分とはいえないので、今後とも取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。		○	向上心を持って働けるよう努力している。
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	利用相談を受けた時には、当ホームを見学して頂き、ご本人や家族にお話させて頂き、不安等よく聴く機会を作り、納得されるよう努めている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	話をよく聞くために、ご家族の方に足を運んで頂いたり、訪問して機会を作り、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン作成時、その都度連絡し、プランに上げている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		○	ショートを利用しながら、馴染んで頂ける様になったが、まだ利用には至っていない。
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	家事等の昔ながらの生活の知恵を日常生活に活かす工夫や、場面作りを行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や行事等でホームに来所された際、日常生活の様子を伝えたり、気軽に相談できる場面を作るなどして、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	日常生活を定期的に、又は随時報告し面会に来やすい雰囲気作りや、面会時に戸惑いがないように支援している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	訪問しやすい環境や対応を心掛けている。 本人の意思を尊重し希望に沿って外出を実施している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	リビングでの配置を考慮したり、レクレーションや行事、共同作業の場面を設け、利用者同士の交わる機会を支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去の原因は殆どが医療的な治療が必要となる入院であるが、電話や手紙などで様子をお伺いしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	利用者が自分のペースで暮らし、自由に自己決定や希望を表示できるよう、又スタッフがそれをキャッチできるように行なっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人のこれまでの生活歴を、サマリーや家族からの情報で把握している。利用者との会話からもっと把握に努めたい。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタルチェックや関わりで、現状を把握し記録したり申し送りにて、連携を取っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には、ミーティングを行い、意見を反映している。	○	家族の意向は電話で確認は取っているが、ミーティングに参加して頂ける様にしたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は実施期間を設定し、評価・見直しを行なう。実行不可能になった場合は、その都度見直しを行なう。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に生活状況を具体的に記録し、それを基本(共有)に介護計画に反映させている。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの特性を活かし、利用者及び家族が自由に意思決定できる柔軟な支援体制がある。	○	なかなか利用で出来ていない。
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の生活の安定や広がりの為に、周辺の諸施設等に理解と協力をお願いしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	包括支援センターや支援事業と連携、相談しながら支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	協働しながら行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者又は、家族が希望し納得している医療機関に受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関をはじめ、週一度の往診や近隣の協力医療機関と連携、相談しながら支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に看護師が来るので色々相談でき、随時対処可能な状況である。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。		○	病院関係者との情報交換や相談は、その都度行っている。どちらかといえば医療機関(医師)の判断に従っている。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族の意志、希望を優先し、往診ドクター、医療機関等と相談しながら方針を共有していく。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	職員の研修等で意識向上をはかり、チーム全体で支援に取り組んでいく。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	充分な情報交換を行える体制作りをしている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの尊重には、充分配慮している。記録には固有名詞を使用しない等、個人情報の取り扱いにも注意している。。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日強生活の中で、自分の思いや意志決定を自由にできる環境作りに努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人一人の意思を尊重し、その人なりのペースを大切に希望に添える様、支援している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望に応じた髪型や服装選び等の支援をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	メニュー作りに利用者の意見が出ないので、季節感に気をつけている。 買い物、準備、片付け等、それぞれ出来る方とは一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	各自の健康状態に注意しながら、希望に添えるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に向けての支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴対応できる様、準備はしており、声掛けを行ない自己決定できる人は、本人の希望に添える様支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人に合った生活リズムを考慮している。又、ドクターにも相談しながら安眠策をとっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	利用者一人一人個別に対応し、その人にあった役割や楽しみを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	スタッフで管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	日常生活での買い物、散歩は、積極的に実施している。ドライブ等にも出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	他の利用者様とドライブや買物に出掛けたりしている。家族の方が希望されれば、いつでも外出はできる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望があれば、ダイヤルはスタッフが行ない、電話でお話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい環境や空間作りに配慮し、ゆっくりできる雰囲気を心掛けている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常に利用者の所在や様子を確認できるよう、スタッフ間の連携を蜜にし、スタッフが利用者の居室に鍵をかける事はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	スタッフ間で連携をとりながら配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	個別対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	スタッフは知識を学んだり、ヒヤリハットを活用して、内容を共有し事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急マニュアルがある。又、看護師に電話連絡可能で指示を仰げる。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災における避難訓練を３ヶ月毎に実施している。	○	地域の人々の協力を得られる様､働きかけが必要である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時に起こりうるリスクについて説明している。また、生活変化の都度、家族と話し合っている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	日々の関わりやバイタルチェック、入浴時の身体観察により、一人一人の異変のサインを見逃さないようにしている異変時は看護師に連絡する。 申し送りでスタッフ間で情報共有。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ドクターの指示や説明を申し送りで共用し、理解している。又、服薬の後の変化に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄のパターンの記録や水分摂取量の記録を取り、個別対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、夕食後(就寝前)の歯みがき、うがい等の支援をしている。	○	昼食後も行なっていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の指導のもと支援している。水分摂取量は必要に応じて記録している。		
78	○感染症予防 　感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	マニュアルがある。 インフルエンザは毎年予防注射、ノロウィルス対策は手摺等の掃除の徹底等。		
79	○食材の管理 　食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、夜勤帯にて消毒を行なう。 冷蔵庫の消毒、食品の期限の確認などの管理に努めている。		
２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 　利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にベンチを設置してあり、いつでもくつろげる。 又、利用者が自由に出入りできる環境整備がされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じられる様、飾り付けを工夫している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室、リビング(畳の間もある)を自由に過ごして頂いている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使いなれた家具や生活用品を持参されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度調節を行なっている。 換気に気をつけている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺等の設置で、安全で自立した生活ができる様工夫している。	○	トイレ内、脱衣室に手摺が欲しい箇所がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	一人一人個別に出来る事を把握し、スタッフの見守りの中、出来る事をして頂いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	敷地内に畑があり、花や野菜を植え、水撒き、草取り、収穫等をしている。物干し場には洗濯物を干したり、取り入れたり一緒にしている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名　　グループホームふれあい矢野　　Ｃユニット

評価年月日　平成 ２１　年　６　月　２３　日　　記入年月日　　平成 ２１　年　３　月　３１　日

※この基準に基づき，別紙の実施方法
　のとおり自己評価を行うこと。

記入者　　職　　介護職　　氏名　　池田、野地

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	フロアごとの目標もあり、事業所理念と共に大切にし、取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	申し送りや、ミーティングで共有している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族へは提示できているが、地域へは不十分。	○	運営推進会議などでこまめに伝えていく。
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶は出来ている。 立ち寄ってもらえるような日常的なつながりは出来ていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	地域の祭りや老人会に参加し、地元の人々と交流出来ている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	町内会行事の祭りの準備や片付けなどの力仕事はさせて頂けるよう話はしている。		
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	フロア内で随時話し合って、取り組もうとしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常生活の様子を報告し、意見を聞いて行事等に参加して頂いている。		
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実施回数は少ないが、地区のグループホーム会議の時に参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度を利用されている方はいるが、職員がそれらについて学ぶ機会を設けていない。	○	フロアーミーティングの時などで時間をとって勉強していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	フロアミーティングで話し合いを持つようにしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４　理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	話し合いを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	苦情窓口を設けている。現在、苦情は出ていない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりは１ヶ月に１回、金銭管理も含め、必ず報告している。職員の異動については、管理者の人事以外は報告できていない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	年２回家族会を行っている。参加人数は少なく、決まった家族の参加になっている。	○	面会時に日勤やリーダーがご家族に近況などを伝え、気になる事はないか伺うようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	フロアミーティング等を設け、話し合いの場は作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフの人数に限界があり、必ずしも出来ていない。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	行ってはいる。しかし、スタッフの離職が続くと難しい時がある。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	法人内ステップアップ研修を定期的に行っている。外部の研修案内も定期的に回ってくる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	６ケ月に１回、地域の事業者と交流会をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフ間では交流がある。全体であると言えない。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。		○	向上心を持って働けるよう努力している。
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	相談の段階では家族からの訴えが多い。	○	本人との関わる時間をとるよう工夫する。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	出来る限り行っている。	○	ご家族に来て頂いたり訪問して話す機会を作っている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。		○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学を実施し、実際に見て頂いている。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	一人一人の能力や性格を把握し、得意なことを生活に活かせるように努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などは近況を伝えると共に、気になることを伺ったり、時にはでの生活について話を伺い、関わりを持つよう心がけている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	何か変化などあれば、連絡を取り連携をとっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	面会や電話などがあり、支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	孤立、又は対立しないよう、スタッフが間に入り交流を持つよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去してしまうと、そこで関係が終わってしまっている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、希望や思いを聞きだせるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に聞いたり、本人から話を聞くこともある。モニタリングにまとめ、把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録に記入したりし、申し送りやフロアミーティングを通じて、スタッフ全員把握出来るように努めている。	○	もっと本人様の得意なことを生活の中で、発揮できるようにしていきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ミーティングを開き、参加できる家族には出席して頂いている。来れない場合も、必ず意向は伺っている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	本人様の状況をみながら、随時現状にあったプラン見直しを行なっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	モニタリングを行ない、対応したスタッフが記入し見直すようにしている。	○	単にケアを行なったことだけでなく、そのときの様子を記録に残し、今後の生活につなげる様取り組んでいきたい。
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	出来る限り意向に添える様努力している。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域資源を生かしたプランは、現在考えられていない。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスの必要等があれば、その都度対応していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	必要であれば対応していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関の先生が、週１回往診に来ている。 希望があれば他医療機関へも受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関をはじめ、週１回の往診や近隣の協力医療機関と連携、相談しながら支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師とすぐ連絡が取れる体制にある。こまめに来所し、健康管理の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	入院時などはこまめに面会し、病院と連携が取れる体制にある。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	その都度家族に連絡を取り、話し合いを持つようにしている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 　重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	先生、看護師と連携を持ち、ご本人様やご家族が望む生活になるよう努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 　本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	アセスメント表やサマリーを一緒に持っていくようにはしている。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	グループホーム内での書類の取り扱いは注意している。 １人の人として尊重した声掛けをしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人に合わせたケアができる様心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。		○	一人一人のペースに合わせているつもりだが､時によってスタッフのペースになってしまっている事が、反省点である。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	グループホームへ理美容師の来所はあるが、希望あれば出かけている。 御家族がされる方もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	食材切りや配膳をして頂いている。 思うように片づけをされた後、きれいに出来ていない所をスタッフが手直しすることもある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、タバコの希望者はいない。他の嗜好品はなるべく希望通りに、おやつや食事メニューに取り入れている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を行ない、気持ちよい排泄が出きるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めず、入りたい日に入って頂けるようにしている。スタッフの都合もあり、夜間帯の入浴はしていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人部屋を用意しており、安心して休んで頂けるよう支援している。 リビングの畳で休んでいる方もいるが、カーテンで仕切り、周りから見えないよう配慮している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	買い物や散歩、台所仕事や洗濯など、得意なことを行うようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	金銭はグループホームで管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	自由に戸外に出て頂けるように外へ出られた場合は、遠くから見守っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。		○	限られた方（歩ける方）は外出しやすく出かけているが、車椅子の方も近所を散歩するくらいに、出かけられるよう支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら手紙を書くことはない。電話は出来る限り対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	来られた際は、リビングまたは、自室でゆっくり過ごして頂いている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束などは行っていない。 研修などに参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。 夜間は１Ｆの玄関に鍵を掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	常に把握できるよう、自然な距離で見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	危ないものなどは保管場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルがあり、いつでも確認できるようにはしている。	○	定期的にミーティングなどで、スタッフ全員で勉強していく。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	グループホーム内で定期的に避難訓練を行っているが、地域の人々の協力は得られていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	面会があった時、または１ヶ月１回の手紙で報告する際、近況を話し、起こりうるリスクについて話をしている。	○	話をしているが、不十分なところがある。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	スタッフ全員で把握する為、記録や申し送りを行っている。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい服薬などがある場合は、申し送りなどで理解できるようにしており、病状の変化の確認を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄パターンの記録をし、排便のリズムをつかみ、牛乳を飲んだりセンナ茶を飲んだり、運動をするなど工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後は必ず行なうようにしている。毎食後は行っていない。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分摂取については、量の少ない方を取り上げ、チェックしている。食事量は全員チェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	手洗いや手摺などの消毒、居室・リビングをハイターでモップがけするなど決めており、実施している。	○	面会者にも手洗い、マスク着用をお願いしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	スタッフは検便をしている。 使用用途に応じて、包丁・まな板を分けている。手洗い、消毒を行ない、管理に努めている。		
2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の人等が気軽に入られる事はない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を飾ったり、利用者の作った物を飾ったりしているが、飾りっぱなしのところもあり、十分とはいえない。	○	トイレが分かりにくい為、印をつけている。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングテーブルには、１人１人定位置があり、思い思いに過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	慣れ親んだものを持ってこられる方、入居にあわせベッドなどを購入される方、様々である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	グループホーム管理にしている。 年中ほぼ一定温度で、外気温との差は気をつけているが、温度差はある。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ＥＶホールや玄関に鍵はなく、自由に出入りできる環境にある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	出来る事、難しい事を把握し、工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	ベランダに花や野菜を植え育ててはいるが、植えっぱなしのところもある。	○	こまめに花や野菜の様子を見て、状況に応じて、入居者の方と一緒に水遣りをしたり、植え替えが出来るように取り組みたい。